

環境のひろば

204号

ふるさとを
きれいに
しましょう

発行者 / 岡山県環境衛生協会
会長 小山 亮

題字 / 岡山県知事 伊原木 隆太

この新聞は“ふるさとをきれいに
する運動”を推進するために
配布しております。



瀬戸内海の根っこ

新見市環境衛生協議会

平成25年11月6日(水)、当協議会では、岡山県産業廃棄物協会備北支部、新見市環境保全協会のご協力を得て、総勢46名での「不法投棄ごみ一斉清掃」を行いました。

実施場所は、新見市草間地内の高梁川。国道180号線の、ちょうど新見市の南の入口となる辺りです。「観光客や帰省客が増える時期に向け、新見の玄関口の清掃をしよう。」というのが今回の目的でした。

しかし、ねらいはそれだけではありません。高梁川が流れ着く瀬戸内海では、海ごみの問題が根強く残っています。海ガメが、レジ袋をクラゲと間違えて食べてしまう、という悲しい話も耳にします。実際、レジ袋の不法投棄が多かったこと。

「根腐れした木は生きていけない」

周りを緑豊かな木々に囲まれ、普段なかなか海を見る機会のない我々でも、『高梁川は瀬戸内海の根っこ』という意識を共有することで、海ごみ問題を身近に感じることができ、環境美化を総体的に捉える、良いきっかけとなりました。

支部だより

岡山市
支部

忘れようとしている ごみの排出意識

岡山市環境衛生連合協議会 花房 明夫

“我が地球 不法投棄に 怒っている”

地球を取り巻く二酸化炭素は、人間の生活環境からの排出量が増加し、温室効果ガスによる温暖化が進んでいます。その影響から異常気象となって、各地で被害を受け、生活環境に悪影響を及ぼしていると言われていいます。つまり、地球は怒り狂っています。

昭和35年頃当時を振り返り、ふるさとの思いを寄せて私が出版した『忘れかけている茅葺き民家 岡山100選』にあるように、あの懐かしい茅葺き屋根の下での生活環境は、のどかで空気は澄んでいて、小川にはメダカが泳ぎ、元気な子どもたちが遊んでいました。農繁期、茅葺き屋根の葺き替え時には、共同作業をしていて、排出物などは知恵を出し、再生・再利用と工夫をし、節約をしていました。決して楽ではありませんでしたが、心の豊かな環境で、「温暖化」の言葉すらありませんでした。温暖化対策は、私たちが改めて意識をし、関心を高めたいものです。今、地球は怒っています。

“チェックせよ 排出物にも 資源あり”

平成25年度、岡山市の家庭ごみの組成分析調査によると、資源化ごみの混入率は不燃ごみ10.4%、可燃ごみ14.4%と、前年度より増加しています。慣れたのか分別の意識が低下しています。

発生抑制＝考えて購入する
再 利 用＝知恵を図る
再生利用＝工夫をする

“なぜ捨てる 貴方そのごみ 罪になる”

平成21年、岡山市のごみの減量化を図るために、ごみ袋の有料化、秋には美化クリーン作戦を実施しました。

平成22年、毎月10日の「岡山県下統一ノーレジ袋デー」には、マイバッグ持参運動に取り組んでいます。未だ十分に浸透していません。

温暖化は人間が原因をつくっていますが、その問題を防ぐのもまた人間です。これからもごみの減量化を図り、意識の向上に取り組んでいきましょう。

倉敷
支部リユース推進！
「ゆずります in 日曜ふれあい市」開催

総社市環境衛生推進協議会

総社市ではリユースの推進を目的とした「生活用品交換銀行」という制度があります。これは家庭の不要品・希望品を登録し、市民の「ゆずります」「もとめます」の間を取り持つものです。通常は広報誌で紹介していますが、利用促進のため、現物を展示して持ち帰りできるイベントを3月に実施しました。

朝市にブースを出し、生活用品交換銀行の登録品を集めてきた品物を一堂に並べました。そして来場者に実物を見てもらい、欲しい方にお持ち帰りいただきました。

出品された約80点はほとんどが譲り先が決まりました。例年の成立件数が約20点ということ踏まえれば、大変効果がありました。

また、来場した市民からは「欲しかった品物がもらえて助かった」「こんなイベントがあればまた来たい」と好

評でした。

ごみになるはずの不要品が減るばかりでなく、楽しく積極的にリユースに参加できる良い機会となりました。

昨日のあなたのごみは今日の私の日用品。これからもごみ減量に繋がる取り組みを発信していきます。



真庭
支部

「温泉とお花でほっと一息」 花いっぱい運動

真庭市湯原地区環境衛生協議会

真庭市湯原地区は全国的にも有名な湯原温泉があり多くの観光客が訪れていることから、地区では自治会、老人クラブ、子ども会などの協力により花壇やプランターへの花の植栽を進めるとともに、6月を中心に河川や道路沿いの一斉清掃活動を行うなど環境美化に努め、訪れた方に気持ちよく滞在していただけるよう活動をしています。

平成25年度は環境美化等推進モデル事業を活用し「花いっぱい運動」としてプランターを購入し、各地区のプランターの更新や植栽を増やしてもらうことで活動の充実を図るとともに、湯原地域づくり委員会との協同により米子自動車道湯原ICから下湯原地区までの約



2.5キロにマリーゴールドを植栽したプランター351個を設置し、訪れた方には温泉に加えて綺麗に咲く花を見て「ほっと一息」してもらい、再び湯原温泉を訪れていただけるようお願いしながら取り組みを行いました。

「花いっぱい運動」を通して地域の方に改めて環境美化への意識を高めていただくことが出来たと思います。

勝英
支部

不法投棄ごみの減少を目指して

奈義町環境衛生協議会

奈義町内の山で林道から何気なく谷を覗き込んでみると、木々や草に紛れて、数年前までペットボトルや空き缶などの不法投棄ごみがちらほら見えていました。

町では、資源をごみにしてしまわないため、各地区で資源ごみステーションに地区の人を割り振り、ごみの分別に努めています。ごみ出し日は、当番の人と世間話などをしながら、資源ごみや不燃ごみを分別しています。

また、古紙やアルミ缶などの資源を、自治会ごとに回収を行う事業を行っています。回収した資源は業者に引き渡し、町から自治会へ補助金が交付されています。補助金は自治会の活動費として還元され、一層の資源

回収を促しています。

このような取り組みを通して、住民へごみの削減や分別に対する意識づけをしてきました。これにより、町内では不法投棄ごみが減少しており、林道から見える谷の不法投棄ごみも見かけなくなってきました。



循環と共生

瀬戸内市環境衛生協議会

私たちが便利で快適な生活をおくるなかで、多くのごみが排出されています。それらを焼却処分することでたくさんの温室効果ガスが発生し、環境への影響が大きな問題となっています。しかし、それらを「ごみ」として焼却処分するのではなく、「資源」として再資源化することでごみの減量と環境負荷の軽減につながります。

その中で、瀬戸内市では平成26年4月から新たに「その他プラスチック」（正式名称：その他プラスチック

その他プラスチック 「その他プラスチック・ペットボトル」の収集日（月2回）に出してください！

“その他プラスチック”の正式名称は“その他プラスチック製容器包装”です。簡単に説明すると、食料品や日用品を買ったときに使われているプラスチックの容器、ビニールの袋や包みなどで、中身の商品を使ったり取り出ししたりした後に不要になるもののことです。これらを“燃やすごみ”とは別に回収することで燃やすごみの減量を推進します。もちろん回収した“その他プラスチック”は貴重な資源として再利用します。



瀬戸内市「ダイエツト通信」第42号（平成26年2月）

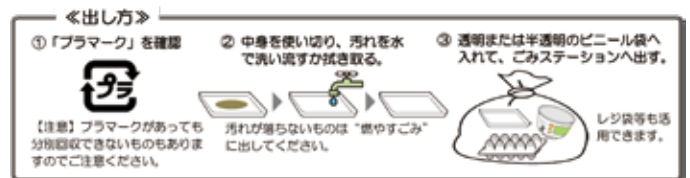
製容器包装)の分別収集を実施します。

主に「プラ容器」と呼ばれるお菓子の袋やレジ袋、食品が入っていた容器や包装などは使い捨てのものがほとんどであり、家庭から出るごみの多くを占めています。

さらに「プラ容器」の原料は石油であり、これを再資源化することで貴重な資源である石油の使用量を減らすことができます。

ごみの分別は確かに面倒な作業です。しかし、市民一人ひとりが環境に対する意識を持ち、できることから始めることが環境衛生の向上、循環型社会の構築につながります。

今後も瀬戸内市環境衛生協議会として、地域のリーダーとなり、ごみの減量化・資源化の推進に向けて取り組んでいきたいと思ひます。



※「その他プラスチック」の回収については、各自治体で取扱いが異なる部分があります。

「海ごみ」をなくそう

岡山県環境文化部循環型社会推進課

瀬戸内海は国立公園に指定されてから今年で80年を迎えます。

「海ごみ」とは、放置や投棄により、川などから海に流れ出て海面を漂流したり、海岸に漂着したり、海底に沈んだりしているごみです。

瀬戸内海のごみのほとんどは周辺の陸域から流入したものであり、レジ袋、ペットボトル、空き缶など日常生活から発生したごみはその多くを占めており、景観を損なうだけでなく、海洋生物の生息環境や漁業活動にも影響を与えています。

海ごみを少しでも減らすために私たちにできることは何でしょうか？

ごみのポイ捨てなどは決してせず、ルールを守ってきちんと分別して出すとともに、ごみができるだけ発生しない生活を心掛け、地域で行われる清掃活動には積極的に参加することなどです。

このような、一人ひとりの取り組みがきれいな海を取り戻すことにつながります。



海底から引き上げられたごみ

環境豆知識

ESD に関するユネスコ世界会議

広報・研修委員 藤原 浩

ESDとは一人ひとりが社会の課題に気づき、価値観を見直し、持続可能な社会をつくるために、話し合い学び行動していく取組のことで、ESDに関するユネスコ世界会議が岡山コンベンションセンター等を会場として平成26年秋に、世界の様々な国と地域から延べ約3,000人が集まって話し合いが行われます。

- いのちの大切さを子どもたちに伝えたい。
- 外国人も安心して暮らせるまちにしたい。
- 災害のときに、お互い助け合えるまちにしたい。
- ふるさとの伝統文化を残したい。
- 美しい自然を残したい。
- みんな仲良くできる未来をつくりたい。

ESD = Education for Sustainable Development
(持続可能な開発のための教育)

こんな誰もが思っていることを、身近なことから実現するために、互いに手を取り、未来へ向かおうとする大きな会議です。

岡山市 / ESD に関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会チラシ等から抜粋

「ESD に関するユネスコ世界会議」に関するお問い合わせ先

岡山市 ESD 世界会議推進局 (ESD に関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会事務局)
TEL : 086-803-1352 FAX : 086-803-1777
E-mail : esd@city.okayama.jp

不法投棄撲滅!



しない!させない!見つけたらすぐ通報!



事業者の方へ

事業活動に伴って生じた廃棄物は、事業者の責任において適正に処理しなければなりません。廃棄物の処理を専門業者等に委託してもこの責任は免れません。委託した廃棄物が専門業者等により不法投棄された場合でも、責任は逃れられません。



県民の方へ

産業廃棄物の不法投棄を発見した場合には、下記通報先へ連絡をお願いします。家庭ゴミ、廃家電等の不法投棄については地元の市町村役場(一般廃棄物担当課)へ連絡をお願いします。

通報先(岡山県所管区域)
不法投棄110番(フリーダイヤル) つう ほう さん ばい
0800-200-2438

岡山県庁内(循環型社会推進課)設置

又は下記の担当課まで

通報先(担当課)	所在地	電話番号	所管区域
備前県民局(環境課)	岡山県備前市	086-233-9805	玉野市・備前市・瀬戸内市・赤磐市・和気町・吉備中央町
備中県民局(環境課)	岡山県備中郡	086-434-7007	笠岡市・井原市・総社市・高梁市・新見市・浅口市・早島町・里庄町・矢掛町
美作県民局(環境課)	岡山県美作市	0868-23-1243	津山市・真庭市・美作市・新庄村・鏡野町・勝央町・奈義町・西粟倉村・久米南町・美咲町

岡山市内・倉敷市内について

通報先(担当課)	所在地	電話番号	所管区域
岡山市役所(産業廃棄物対策課)	岡山市北区大供1-2-3	086-803-1303	岡山市
倉敷市役所(産業廃棄物対策課)	倉敷市西中町6-40	086-426-3385	倉敷市

●不法投棄された廃棄物は原則として自治体が撤去することはありません。投棄者、排出事業者等に撤去責任がありますが、行為者が特定できない場合は土地所有者(管理者)等に撤去責任が生ずる場合があります。

アースキーパーメンバーシップ 会員募集中!!

岡山県では、地球温暖化を防ぐために、自ら環境への影響を減らす取組を継続的に行う人たちを、地球(アース)を守る人(キーパー)として募集し、会員登録しています。

あなたができること・チャレンジすることを3~6つ選んで登録してください。



地球のためにアースキーパーメンバーになろう!
あなたの取組が地球の温暖化を防ぎます!

【お問い合わせ先】

岡山県地球温暖化防止活動推進センター
TEL:086-224-7272 FAX:086-224-7273

ホームページ:https://www.okayama.kankyo.or.jp/earth_keeper/

機関誌、協会に関するお問い合わせ先

岡山県環境衛生協会事務局
〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6
TEL:086-226-7307 FAX:086-224-2271

この機関誌は、当協会ホームページでもご覧いただけます。

URL <http://www.pref.okayama.jp/page/351042.html>



協会活動の紹介

民間指導者研修会

当協会では毎年、県内3カ所で「民間指導者研修会」を開催しています。

環境保全や美化活動等に関する講演や各地域での活動事例の発表等を行い、環境衛生に関する技術を高め、専門知識を広めるとともに、参加者同士の情報交換の場となっています。

今年も各地区の環境衛生団体の役員等が多数参加



されました。

研修会に先立ち、環境衛生改善活動に多大な功績のあった団体、個人に対する岡山県各県民局長表彰、また、当協会賛助会員表彰の贈呈を行いました。

■ 研修会の主な内容

- ◎ 備前ブロック（開催地：吉備中央町）
事例発表：瀬戸内海の海底ごみの回収活動・啓発活動
講演：微生物と環境
- ◎ 備中ブロック（開催地：倉敷市）
講演：目からウロコ！自然写真から学ぶ岡山の環境
- ◎ 美作ブロック（開催地：津山市）
講演：『落書き消し』から街づくり、人づくりへ。
事例発表：津山市花いっぱいコンクール

リサイクル推進委員会 活動報告

当協会では、4つの専門委員会を設置し、活動をしています。そのひとつ、リサイクル推進委員会では、今年度、委員会会議の中で地域での取組事例について情報交換を行いました。ちょっとしたアイデアや地域での取組を一部、紹介します。

リサイクル推進委員 委員長 岡本 正夫 副委員長 小椋 邦子
委員 明榮 邦子 榊原 秀雄 原田 潤作 横山三恵子 拘井 正子

■ 「マイバッグ・チャレンジ30」への参加でマイバッグ持参の意識づけ

岡山県が11月に実施した「マイバッグ・チャレンジ30」にグループで参加し、楽しみながらレジ袋辞退、マイバッグ持参運動に取り組みました。

「マイバッグ・チャレンジ30」のような企画にこれからも参加したり、企画について周囲にお知らせしたりして、マイバッグを持って買い物に行くことを「いつも」にしたいですね。

マイバッグ・チャレンジ30とは…

11月の「レジ袋秋休みキャンペーン」期間中の30日間、買い物にマイバッグを持参して、レジ袋の受取を辞退した回数をグループで競い、レジ袋の削減やCO₂の削減の効果を「見える化」する取組です。

115グループ992人が参加し、レジ袋辞退回数13,635回でした。これによる総二酸化炭素削減量は419,958gで、杉の木が1年間に吸収する二酸化炭素の量に換算すると約30本分に相当する量です。

- 1回当たり1袋（30.8g）分が削減されるとして算出
- 杉の木1本の年間二酸化炭素吸収量を14kgとして算出

出典：岡山県環境文化部循環型社会推進課ホームページ

■ ビニール包装の再利用

スーパーで水気の出る食品を持ち帰る時に無料でもらえる透明の小さなビニール袋は、1枚だけもらって、その日出た残飯入れにします。1日1枚で十分な大きさです。ごみも小さくまとめて捨てることができます。また、食品の包装などをお店が回収してくれる場合は、マナーを守って利用しましょう。

家庭に持ち帰る容器包装を少なくし、また、家庭から出すごみも少なくしましょう。

■ 地球にやさしい再生紙トイレットペーパーを使う

循環型社会“山の木を大切に”をスローガンに総社市ごみ減量化作戦連合協議会では一部地域で古紙再生紙トイレットペーパーの注文受付をしています。

お年寄りに人気があり、1年間分をまとめて注文される方もいらっしゃいます。

また、役員が各家庭にお届けし、買い物に行けないお年寄りに喜ばれています。

“リサイクル”これからも私たちはごみの減量化に努力していきたいと思えます。

紹介

「環境川柳」

応募作品

「環境のひろば」二〇〇号の発行を記念し、「ごみのない住みよい環境岡山県」の実現を図るため、「環境川柳」の募集を行い、県内各地から多数のご応募を頂戴いたしました。

今号で、皆様からいただいた環境川柳全ての紹介が終わります。心より厚くお礼申し上げます。

皆様の力作揃いの句をどうぞお楽しみください。なお、敬称は省略させていただきます。

冷蔵庫いつまで眠るの山中に

村上輝子 新見市

古毛糸ひ孫の服に編み直す

瀧本敏恵 新見市

川下に住んで川のごみ拾う

撰 喜子 倉敷市

とぎ汁をあげる野菜の丸かじり

井戸邦子 倉敷市

減量をする書かれたゴミの箱

池田イタロー 倉敷市

ごみの山消えてきれいな絵が描ける

嘉寿滝子 浅口市



賛助会員表彰を行いました

永年、当協会の活動に深くご理解とご支援を賜り、環境衛生改善事業の推進に多大な貢献をいただいた企業、団体に感謝状を贈呈しました。

表彰式典は十月、十一月に県内三カ所で開催した環境衛生民間指導者研修会で執り行いました。

●株式会社川本様

●広成建設株式会社岡山支店様

●大饗工業株式会社様

●公益社団法人倉敷環境検査センター様

誠にありがとうございます。

引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願ひします。

新規賛助会員の紹介

新たにご入会いただいた賛助会員は次のとおりです。

●有限会社美咲ファーム様

●農事組合法人旭グリーンファーム様

●社会福祉法人祥陽会様

●有限会社浅口清掃センター様

●中川美智子様

誠にありがとうございます。

末長くご支援賜りますようお願いいたします。

新規賛助会員の募集

当協会の活動は、賛助会員の皆様による支援金により成り立っています。

地域に根ざした活動を引き続き行っていくため、当協会では、ご支援いただける個人・団体を募集しています。

地元で行われている清掃活動や不法投棄防止運動、マイバッグ推進運動等への支援をお願いします。

101万2千円で、10から入会できます。

賛助会員の皆様からの記事を募集します

日頃から取り組まれている環境保全、環境美化に関する活動について、賛助会員の皆様からの記事の投稿をお待ちしています。

字数：約400字

(写真、図等をあわせて提供ください。)

例：事業所付近の清掃活動、環境に配慮した事業・製品、一般の見学者の受け入れ等。

提言箱

「宝の山で」資源循環

高梁市環境衛生協議会

最近山が荒れており「イノシシやシカの被害が増えた」「山の木が何か利用できないか」という声をよく聞きます。過疎高齢化による人手不足や、木材の経済的サイクルの長さなど、要因は様々でしょう。

しかし、山の産物を放っておくのは「もったいない」ということで、先進例として挙げられる、真庭市の木材を活かしたバイオマス産業、西粟倉村での間伐材を利用した家具などの製造は、地域特性が活かされた活用方法です。

管理がやっかいな山でも、昔の生活を見直せば、身近なところでもその活用方法はいろいろあります。例えば里山がくれた宝物として、炭を焼いて料理に使用できます。ガスや電気がないところは、炭を使うしかなかったというのがありますが、近赤外線と遠赤外線の効果で料理はとても美味しくなります。炭を使い終わると灰が残



天空の山城 備中松山城

ります。灰も昔は肥料や洗剤など用途が様々で、江戸時代は灰を買い取る商人もいたそうです。まさに資源循環の社会です。山をお持ちの方、それは「宝の山」かもしれませぬ。

高梁市でも宝の山を活かすことによって、幅広く環境意識の向上につなげていける取り組みを進めたいと考えています。

編集後記

環境衛生活動に永らく携わっていると、例えば、書店に立ち寄った時など、環境関連の書籍の前で、つい足が止まってしまいます。

二酸化炭素削減に関する参考書を読むと、太陽光や太陽熱、小水力発電や風力発電、バイオマスなどといった、自然エネルギーを利用するための技術の進歩に驚嘆させられます。その一方で、エネルギーを使う我々の行動こそが重要であると学ぶこともできます。

技術革新による、せっかくのエネルギーを無駄遣いしないためにも、マイバッグ持参運動をはじめとして、再

利用、再生利用など、エコライフの推進に、これからも努めてまいります。

さて、皆様にご愛読いただいております、この「環境のひろば」。読者からのご意見を踏まえ、今号より右開きから左開きに変更となりました。左開きと言え、一般的に、多くの参考書と同じ方向です。

「環境のひろば」が皆様に広く活用され、環境問題を考えていくための、一番身近な参考書となれば、幸いに思います。

広報・研修委員 村上 輝子



広報・
研修委員

委員長 山本 光教
委員 室田 勉

副委員長 藤原 浩
石井日出子 鈴木 邦彦 村上 輝子 延原 健

ふるさとの

未来を創造する

総合環境リーダー

公益財団法人

岡山県環境保全事業団

〒701-0212 岡山市南区内尾 665-1
TEL (086) 298-2122 (代)
FAX (086) 298-2496

厚生労働大臣登録水質検査機関
厚生労働大臣登録食品検査機関
厚生労働大臣登録簡易専用水道検査機関
岡山県知事指定浄化槽検査機関

公益財団法人
岡山県健康づくり財団

〒700-0952 岡山市北区平田 408-1
TEL (086) 246-6254 (番代)
FAX (086) 246-6258 番
北部支所 〒707-0004 美作市入田 291-2
TEL (0868) 75-3151 番
FAX (0868) 75-3153 番

社団法人 岡山県浄化槽団体協議会

会長 八田 富夫
副会長 武村 良夫
" 木村 俊介
常務理事 平井 覚
顧問 八田 武志

〒703-8282 岡山市中区平井 1097
電話 086-276-8585
FAX 086-276-9081